

少人数学級に逆行 村井知事の答弁

いじめ自死・不登校、特別な支援が必要な子どもの増加…

35人以下学級の早期実施を

6月28日、角野達也県議は一般質問に立ち、子どもたちは様々な生徒間トラブルや深い悩みの中に生きており、県教育委員会がただちに打つべき手立てとして、全学年で35人以下学級にすることを求めました。

角野県議 他県は35人以下学級で成果を上げている40人でも35人でも変わらない

角野県議

35人以下の少人数学級は、学力の高い県や不登校率・長期欠席率が低い県などで実施されていて、様々な課題解決の土台として有効なことは明白。他県の成果をどう受けとめているのか。

角野県議

県内でもいくつかの市町で35人以下学級をしている。7月の仙台市長選挙でも、4人の内2人が、少人数学級を政策の重要な柱として掲げている。それでも県教委はかたくなに35人以下学級を拒み続けるのか。

角野県議

この期に及んであきれられる答弁だ。少ない方がいいに決まっている。



教育長 各県では、少人数学級編成をはじめとする様々な取組を進める中で、成果が出てい

教育長 市町村が独自に取り組みをしているのは承知してい



知事 角野県議 子ども達は先生を求めている。今こそ決断せよ
クラスはもともと大きな規模がいい

角野県議

2001年に「さんさんプラン」に基づく33人学級を開始した山形県では、定期的に学級の安定度を調査し、学級規模と安定度の関係、安定度と学力の関係进行分析している。

きないからいつまでも問題が解決しない。
35人以下学級を決断せよ。

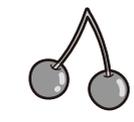
通常学級と特別支援学級の支援員を増員せよ

村井知事 私たちは40人とか50人学級とかで育ったが、それでもこうやって立派に育ってきている。少人数学級の方がいいと思うが、ワイワイガヤガヤと楽しかった思い出がたぐさたぐさある。子どもが減ってくるので、クラスの人数は減っていくが、私は必ずしもいいことではないと思う。クラスはむしろもっと大きな規模にする方が良いというのが私の考えだ。

責任者として、教育を含めて、教育長を選ぶ権限は知事にある。その知事として、今の宮城の教育の現状をどう考え、学級編成をどう考えているのかを聞いている。
昔ののんびりとした時代と違う。かつて起こらなかった問題が起って、教育委員会も大変な思いで頑張っている。そういう事を全然受け止めないで、後戻りさせるような知事の姿勢だから、国にいくらやってくれと言ったってやってくれない。真実さが無い。

角野県議

市町村の課題をつかんで、積極的な役割をはたして欲しい。



心身障害者医療費助成制度

知事 償還払いから申請書のいらさない 自動償還払いへ検討を明言

障害者の適正な受診機会の確保と経済的負担の軽減のための心身障害者医療費助成制度。
家族3人が障害を抱えている方から、「横浜から仙台に引っ越して来たら、受給者証の取得後、毎月かかった病院ごと、薬局ごと、入院と通院が重なればそれぞれ別々に助成申請書を提出しなければならなくなった。しかも、償還されるのが3ヶ月、4ヶ月後になるので困る」と相談を受け、窓口負担ゼロを求めました。

角野県議

毎月一人が3枚も4枚も助成申請書を書かなければならず、ご家族に何人も障害者がいる場合、10枚を超える月もある。大変な負担だ。

角野県議

もう一度調査して、市町村の本当の想いをつかんでほしい。

角野県議

県内ではいくつかの市町村で国民健康保険加入者については受給者証を示すだけで良いとしている。広げるための県の役割を果たせないか。



仙台市や県市長会、塩釜地区2市3町の広域行政連絡会から、現物給付化を求める要望が出されている。県の姿勢にかかっている。

保健福祉部長 市町村と協議していく。

村井知事 角野県議の質問を見て、その通りだと思う。助成申請書についてはなくす方向で検討するよう指示をした。

日本共産党 県議団ニュース 速報版 2017年7月 第13号
発行:日本共産党宮城県議会議員団 (事務所) TEL 022(267)1511 (控室) TEL 022(211)3523 FAX 022(268)6093 http://www.jcpmk.jp/